

平成31年4月4日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 自由民主党志清会

代表者氏名 堀 江 武 史



会派の（調査研究）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成31年3月25日(月)～ 平成31年3月26日(火) 1泊2日
2 調査研究または 研修の場所	3月25日(月) 山口県 株式会社まちあい徳山 (周南市)
	3月26日(火) 山口県 山陽小野田市役所 (山陽小野田市)
3 調査研究事項 または研修名	3月25日(月) 周南市 株式会社まちあい徳山
	①市との協働 まちづくりについて (概要説明)
	②街並み現地視察 (成果の確認)
	3月26日(火) 山陽小野田市 山陽小野田市役所
	③議会改革について (概要説明)
	④山陽小野田市議会議員との意見交換会
4 参加者氏名 (9 名)	堀江武史 子籠敏人 天野正昭 中嶋博幸 村野栄一
	窪島成一 ひはら省吾 中村一広 臼井 建
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



【考 察】

まずは、話しを伺った代表である河村啓太郎氏について、人間性はもとより、行動力・アイデア・人脈など、特筆すべき点が多かったこと。

株式会社設立にあたり、商店街のしがらみの少ない河村氏が抜擢されたのはある意味この事業が好調である要因の一つといった印象を受けた。

事業としては、立ち上げから3年間で多くのイベントを打ち出し過ぎ、資金不足に陥った例や、複合商業施設運営の赤字が続き、苦勞をした失敗談などを話しの中に盛り込み、取組の歴史や難しい部分についても、わかりやすい説明であった。まちづくりには、確実に成果が上がる即効性のあるものは無いが、やはり行動力やバイタリティーが必要であると、改めて考えさせられた。

徳山駅周辺は、アーケード商店街も多く、コンパクトシティーといった構造であるため、あきる野市にそのまま使えるといった取り組みは無いが、印象に残った話しとして、行政に1人、民間に1人、情熱と行動力を持った人材が必要であるという考え、そして人脈をフルに活用したマッチング力を発揮し、行動することが必要であると強く感じた。

(2) 平成31年3月26日(火) 9:30-11:30

【視察先】 山口県 山陽小野田市役所

【目 的】 議会改革、議会基本条例制定についての効果、成果等の意見交換を実施し、様々な取組について参考にするため伺った。



【取組】

1 議会基本条例制定

- ・ 52回にわたる慎重審議を実施

他、議会基本条例制定特別委員会設置、議員研修、市民説明会、あなたのコーナー設置等。

2 一般質問の方法

- ・ 分割方式、完全一問一答方式 質問答弁を含め70分以内 5日間
大学教授による質問力研修を実施。

3 自由討論（議員間討論）を採用

- ・ 特に委員会での請願・陳情に関して審議し結論を出す場合、議論を尽くし
合意形成を図る。

4 議会カフェ（議会報告会）

- ・ 年4回 6会場 班編成

参加者を増やす取組として、公共施設以外にもポスター掲示、議員3名の
動員を要請、アンケートにどの議員から誘われたか書く欄を設ける。

5 議会市民懇談会

- ・ 市民と議員が意見や情報を交換するための場を設けるための取組。

6 議会モニター制度

・市議会の活動や運営について市民から意見を聞き、反映させるのが目的。

定員は10名以内、任期2年（再任可）職務としては、本会議等の傍聴ネット中継の視聴、議会報告会に参加、議員との意見交換会に参加など。

7 議会アドバイザー制度

専門的な知識や経験から議会の運営、改革に関する助言・指導を受けることで議会の資質向上を図る。

山梨学院大学教授 江藤俊昭氏、早稲田マニフェスト研究所事務局長

中村健氏、その他議員の資質向上のために、事務局を交えてのグループワーク、市民・他市議員も参加しての会議、ファシリテーター研修等を実施。

【考 察】

様々な取組により、情報公開が進んだ、市民参加の機会が増え、議会の機能が強化した等、成果や効果も表れているとの事。半面取組の中には改善の余地のあるものも見受けられる。例えば議員間の自由討論。議員相互の議論を尽くして合意形成を図るのが目的だが、実際には意見表明にとどまる、討議ではなく論破になっている等、議員間討議の難しさも、問題点とされている。

また、議会報告会改め議会カフェでは、参加者を増やすための工夫もされているが、やはり同じ人物の参加や年齢の偏りなどの問題点も悩みの種だとの事。市民に議会の活動を知ってもらうことの様々な取組を実施しているが、実際に効果が表れているかは、かなり難しいと感じた。その中でも議会モニター制度を展開することは、市民との相互理解の中で進めているとは思えず、広義では今まで推奨されてきた議会改革に関して検証する時期にきているのかもしれない。デジタル時代にあった市民との相互交流も模索する取組を通して、広い年齢層に伝える手段も検討していきたいと考える。